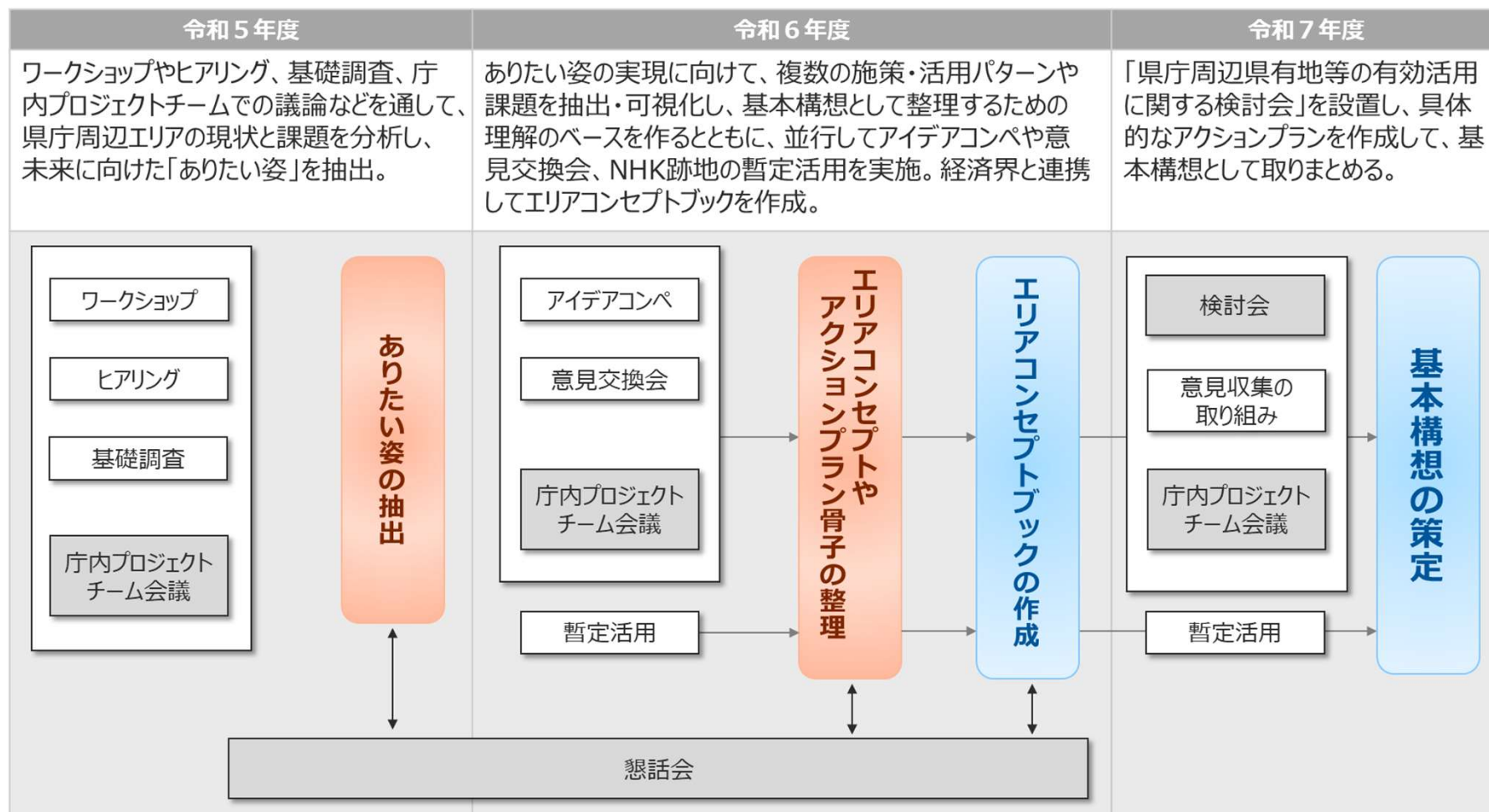


県庁周辺県有地等有効活用に関する基本構想（概要）

1. 基本構想の策定について

- 県庁周辺エリアは、富山駅周辺と商店街地区の中間に位置し、歴史資源や水と緑の自然資源に恵まれているにもかかわらず、歩行者の流れが少なく賑わいに欠ける状況が続いています。
- 一方、このエリアを歩きやすく（ウォーカブル）、憩いとゆしみのあふれる空間に生まれ変わらせたいとの声が、近年、広く聞かれるようになってきました。
- 県では、経済界と連携しつつ、県庁周辺県有地等の有効活用を目指して、これまでの取組みを整理するとともに具体的なアクションプランを描いた基本構想を策定します。



2. ありたい姿

- 令和5年度、このエリアの価値を最大限に高め、新たな時代に向けて、富山県の都市競争力を高める「核」となるため、県庁周辺エリアの「3つのありたい姿」を描きました。

1

憩いとゆしみ あなたの幸せ

歴史・水辺・緑を活かして
まちの中心における憩いと
ゆしみの空間を形成し、
来街者・従業者・居住者の
ウェルビーイングを向上
させるエリア



2

まちにつながりと 一体感を醸成する

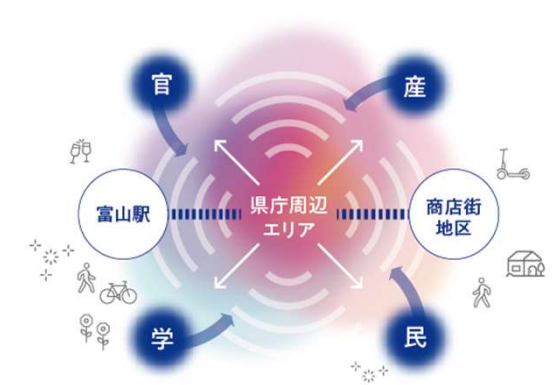
まちなかの連続性・回遊
性を高めて、まちをシーム
レスにつなぐとともに、周
辺街区に賑わいの好循環
をもたらすエリア



3

県全域に 付加価値を届ける

公有地を舞台に県内外
の多様なプレイヤーが集
まり、産学官民連携や
人々の交流が積極的行
われ、富山のまちの核
として求心力と発信力を
生むエリア



3. エリアコンセプト

- これまでの検討やアイデアコンペ・意見交換会等の意見収集の取り組みを受けて、令和6年度、ありたい姿を実現させるための「エリアコンセプト」を設定しました。

いつでも、歩くたびに…を感じる。



4. 自分らしい過ごし方について

- 具体的なシーンをイメージできるように、公共空間における人々のアクティビティの視点に立って、自分らしい過ごし方を整理しました。

人々の抽出



自分らしい過ごし方のイメージ

誰が	どんなときに	どのように過ごしている
① 従業者	平日の昼休み	屋外のベンチや芝生でランチや会話を楽しみ、仕事の合間にほっと肩の力を抜くことができる
	平日の仕事帰り	夕暮れや夜間のライトアップされた水辺・緑地で一息つき、それぞれのウェルビーイングな時間を過ごす
② 行政職員	日頃の仕事	日々県民の幸せに向き合い、魅力的で洗練された都市空間において誇りをもって県民のために力を尽くす
③ 居住者	日頃	水や緑の心地よさを全身で感じ、自分らしい過ごし方を見出し、「富山で暮らす豊かさ」を実感できる
④ 子育て世代	休日	ベビーカーで散歩して、安心して子どもを芝生で遊ばせながら、子育てコミュニティと同じ時間を過ごす
⑤ シニア世代	日頃	ゆっくりと歩いて散策して、人々の賑わいを感じながら、四季の移り変わりや人生の豊かさを感じられる
⑥ 若者・学生	放課後・休日	友人と集まり、四季の景観やイベントの様子など富山の魅力を自発的に発信したくなる、新しいアイデアを着想して活動を実践したくなる
⑦ ビジネス客	来庁時・来街時	来庁前後の時間を有意義に過ごし、産学官民の多様な人々との出会いが生まれる、「コンパクトで歩きやすい県都」「都市競争力のある県都」としての印象を持ち帰る
⑧ 観光客	観光の合間	まちなか観光の一つの拠点としてまちを回遊するキッカケを生み出す、富山の魅力に触れることができる
⑨ 県民	常に	「開かれた県庁」とともに県のアイデンティティを再認識できる、県民の一体感を醸成する

5. アクションプラン

- アクションプランとして、空間・施設等に対する施策「5つのアクション」を設定しました。
- エリア全体の都市デザインの視点として、エリアを一体化して歩きやすく滞在性の高い空間をつくり、緑あふれる憩いの広場や公園を生み出すこと、富山駅と商店街地区をつなぐ役割を担うこと、さらに個別施設としてポテンシャルの高い松川や県庁舎本館の利活用を検討することが望ましいという方向性を導き出しました。

5つのアクション 【空間・アセットに対する施策】

- 01 ウォークブルで一体的な歩行者空間を生み出す
- 02 まちなかにおける緑のオープンスペースを創出する
- 03 松川べりを憩いの水辺空間として魅力を向上させる
- 04 歴史ある県庁舎本館をまちに開かれた賑わい拠点として複合的に活用する
- 05 富山駅～商店街地区との連続性・回遊性を高める

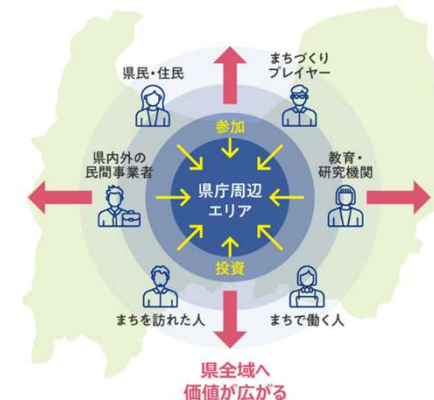


6. エリアマネジメント

- エリアマネジメントの試行を重ねるとともに、プレイヤーの発掘・育成を行い、民間投資を呼び込み、民間資金の循環による持続的なエリア経営の実現を目指します。
- 県庁周辺エリアや周辺地区におけるまちづくりやエリアマネジメントの既存の取組みとさらに連携を深め、望ましいマネジメント体制のあり方を検討します。
- 富山県に関わるすべての主体が実行者となり、参加を受け入れて投資を呼び込み、この場所ならではの多様なプロジェクトを共に創り出していきます。

◆ エリアマネジメントの実践に向けた取組み

1. 県庁周辺エリアの活性化に関わる産学官民の各ステークホルダーとの意見交換
2. 県庁若手職員、市役所若手職員、富山大学学生によるワークショップの開催
3. 富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会（富山経済同友会事務局）への参画
4. アイデアコンペの開催（地元経済界からの協賛）
5. 学生・若者を対象とした意見交換会の開催
6. NHK跡地の活用を通じた連携（富山市、富山青年会議所、富山商工会議所、富山大学、県内プロスポーツチーム、地元企業等）
7. とやま地域プラットフォームでの県庁舎本館の利活用に係るサウンディング調査
8. 城址公園戦略会議（城址公園パークマネジメント共同企業体主催）への参加
9. 富山市桜木町地区の連携プラットフォームへの参加
10. （一社）トヤマチミライとの連携した活動
11. (株)富山市民プラザのまち歩きツアー（県庁舎案内）受入れ
12. 富山大学の夏季集中講義の協働ワークショップのテーマに採用・NHK跡地でのイベント企画
13. 富山中部高校生との連携強化、探求学習のテーマに採用



アクション①：ウォーカブルで一体的な歩行者空間を生み出す

- 一体的な街区のランドデザインを定めるとともに、歩行者空間を生み出すための県有施設や駐車場等のあり方についての方針を定めます。

【アクション①施策】	【検討事項】
1. ウォーカブルで一体的な街区のランドデザインを定める	ランドデザインの歩行者動線イメージ、検討の対象となる施設等について
2. 駐車場の配置に関する方針を定める	現状の駐車場の情報整理、想定される駐車場の配置の考え方
3. 本館周辺の既存の県有施設の配置に関する方針を定める	現状の県有施設の情報整理、一団地の官公庁施設について
4. 道路の歩行者空間としての充実化を図る	道路の歩行者空間化に向けての考え方

歩行者動線のイメージ



- 富山駅と商店街地区との間にある立地環境を踏まえ、南北の人流動線を意識して県庁前公園～県庁敷地～県庁舎本館～松川へとシームレスに繋がる歩行者空間をデザインします。
- NHK跡地と県庁前公園の連続性を生むなど、城址大通りとすずかけ通りの間の東西の人流動線も意識することで、面的にウォーカブルな空間を創出し、歩行者がこのエリアに流入し、回遊し、周辺に人流が広がっていく姿を目指します。

分類	委員の主な意見
駐車場	- 歩行者に優しい空間整備のため、駐車場を地下に再配置し、緑の丘を設けて訪れやすい環境を整備してはどうか。 県庁正面の駐車場のリノベーションを最優先課題とし、前面空間を歩行者が安心して利用できる場へ変更する必要がある。 - 歩行者が自然と流れる工夫が必要。人を引きつけるために建物や駐車場がどこにあるべきかという視点が必要。 - 歩行者中心の新動線を軸に置くと、県庁前公園や周りに建てる建物、空間の配置の考え方も考えやすい。駐車場についてもあわせて考える必要がある。
分類	委員の主な意見
県有施設	歩行者中心の新動線を軸に置くと、県庁前公園や周りに建てる建物、空間の配置の考え方も考えやすい。 - 県庁舎本館の南正面を復元できると、南北の動線をつなぎやすくなる。

アクション②：まちなかにおける緑のオープンスペースを創出する

- まちなかに貴重な緑の公共空間を創出し、訪れる人々に憩いと愉しみの時間を提供し、緑あふれる美しい都市景観を形成します。

【アクション②施策】	【検討事項】
1. 緑の空間創出に関するランドデザインを定める	エリア全体の緑の配置について、都市公園の範囲について、ランドスケープデザインの考え方
2. 既存の公園施設・植栽の利活用方針を定める	既存の主な公園施設について、今後の利活用について
3. 新たな公園の機能を導入する	新たな導入機能について

アイデアコンペ提案作品のイメージ



事例：グラングリーン大阪



・ グランドデザイン

県庁周辺県有地の公共空間を活用して緑のオープンスペースを生み出し、城址公園や松川、城址大通り、民間開発事業と連携してまちなかに緑の連続性を創出します。

・ ランドスケープデザイン

周辺エリアからの視認性、連続的な緑の配置、歩行者動線や人々が集うオープンスペースの確保、施設の配置・形状・規模の設定など、ランドスケープデザインとして重視すべき考え方を整理します。

・ 新たな機能

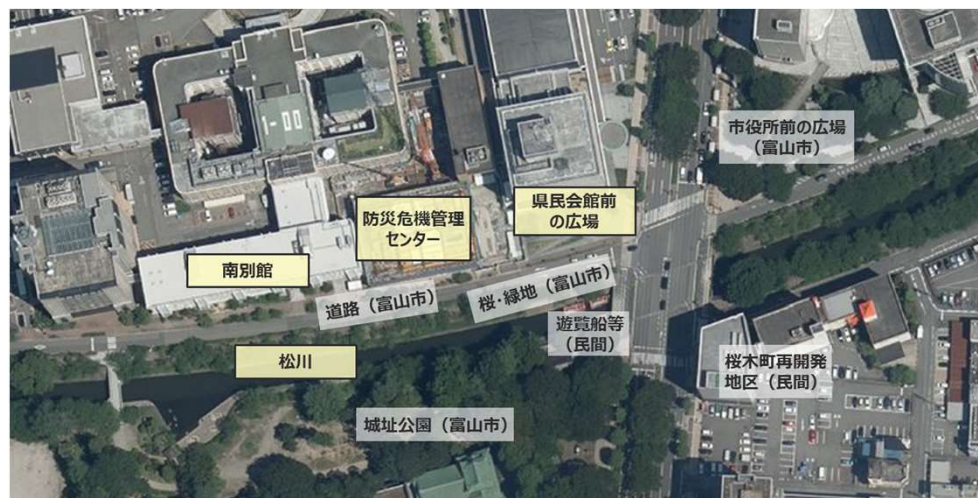
雨天時・夜間・冬季において、滞在できて愉しめるコンテンツを提供できるように、民間事業者との対話を重ねながら検討していきます。

アクション③：松川べりを憩いの水辺空間として魅力を向上させる

- 松川のポテンシャルを最大限に活用し、官庁街やオフィス街に寄り添う親しみのある水辺空間として、魅力を向上させます。

【アクション③施策】	【検討事項】
1. 松川べりを水辺空間として魅力向上させるための空間活用方針を定める	松川べりの空間活用について、県有施設等の空間活用、松川に関わる民間事業者等との連携
2. 賑わい機能や活動を創出・誘致する	賑わい機能や活動について

松川べりの主な施設等の現況



松川べりの主な県有アセット

松川（城址公園側）の親水スペース



- 県有施設等の空間活用
他のアクションと連携して親水空間としてのあり方を検討します。
- 民間事業者等との連携
松川べりにおいては富山市が管理する城址公園、桜・緑地、道路がある他、民間事業者による遊覧船等の運営、桜木町再開発地区における開発計画があるなど、民間事業者等が様々な活動を行っているため、密接にコミュニケーションを図っていきます。

河川空間を活かした賑わい創出の推進について



アクション④：歴史ある県庁舎本館をまちに開かれた賑わい拠点として複合的に活用する

- 庁舎機能のあり方の検討とともに、県庁舎本館の価値を最大限に生かした新たな機能の導入により複合的な活用を行い、まちに開かれた施設としてエリア全体に賑わいをもたらす拠点とします。

【アクション④施策】	【検討事項】
1. 庁舎機能や複合的な活用の方針を定める	複合的な活用によるまちへの開放、登録有形文化財の登録、県庁モデルオフィスの取組みについて
2. 複合的な活用に向けて新たな機能を導入する	求められる新たな機能、官民連携手法の導入検討

県庁舎本館の内部の様子



- 貴重な歴史資源として、本館の建物を保存しつつ、まちに開かれた賑わい拠点となるように、新たな機能の導入や複合活用のあり方について検討していきます。
- これまでのワークショップやアイデアコンペ、民間事業者へのサウンディング等を踏まえ県庁舎本館の新たな機能について、県民や民間事業者との対話を重ねて、望ましい複合活用のあり方を検討していきます。

分類	委員の主な意見
本館の複合活用	- 現庁舎は歴史的価値があり残す必要があるが、市民や観光客が親しめる場所にすべき。 - 富山市の戦災を生き延びた歴史的建物として県庁舎の保存は重要。 - 県庁機能が中心市街地から移転すると、職員や来庁者を含む市街地の中心性が低下し、市との連携も難しくなる。 - 県庁の主要機能がまちなかに残ることは必須。県と市との連携維持と市街地の活気保持が重要。 - 昼間人口創出のためにも、庁舎機能の一部は残るほうがよい。この場所に県庁職員がいて、新たにここを活用する人たちとまじり合えるようなことができるとよい。 - 旧庁舎はユニークベニューとして保存し、ホテルやレストラン、博物館を併設してはどうか。 - 学生の社会見学や産業観光の拠点にもなる「富山産業博物館」として、県民のシンボルにすべきではないか。 - 県庁舎の真ん中を通れるようにすることで、県民に開かれた県庁でありながら、まちの雰囲気もあるという非常に面白いことが実現できる。

アクション⑥：富山駅～商店街地区との連続性・回遊性を高める

- 富山駅周辺と商店街地区の間の分断を解消し、賑わいの連続性と動線の回遊性を生み、周辺エリアとの連携を強化します。

【アクション⑥施策】	【検討事項】
1. 周辺エリアとの連続性を高める歩行者動線のデザインを定める	周辺エリアとの関係性について
2. 回遊性を高める機能や活動を創出・誘致して周辺エリアとの連携を強化する	回遊性を高める機能や活動について

周辺エリアとの連携



- 周辺地区との関係性の中で、歩行者がこのエリアに流入し、回遊し、周辺に人流が広がっていくことで、まちなか全体を活性化させることを目指します。
- 城址大通りやすずかけ通りとの連携については、道路の歩行者空間化の取組みや電停・バス停からのアクセス性向上など、シームレスな歩行者動線としてつながるように、アクション①と連携して、具体的な施策について今後検討していきます。
- 南側の城址公園や桜木町再開発地区との連携については、アクション②の緑の連続性やアクション③の松川べりの魅力向上に取組むことで、双方向の人流が生まれることが期待されます。
- 富山駅と県庁周辺エリアを繋ぐ動線としては、城址大通りのほか、北側商業エリアとの連携も視野に入れます。

アクションプラン実行に向けた仕組み

- アクションプラン実行に向けた仕組みとして、ハード・ソフト両輪での持続的な取組みにより好循環を生み出し、エリアの魅力・価値を向上させる考え方を以下に示します。
- 「5つのアクション」に基づいた空間のデザインを行い、それが呼び水となり積極的な民間投資を呼び込みます。それによって人流が生まれ、人が集まり、産学官民のプレイヤーの参加と多様な連携が行われます。新たな付加価値が生まれることで、更なる持続的な空間デザインが行われます。
- このような好循環を創り出すことで、エリアコンセプトやありたい姿の実現に近付くことを目指します。

